



No. 167 2025年4月

博物館だより



新展示に向けて - アロデスムス骨格

十勝からは数種類の鰭脚類(きぎゃくろい)の化石が見つかっています。鰭脚類とは、アザラシ、アシカ、セイウチの仲間で、海の哺乳類です。

その鰭脚類の中に、千数百万年前に繁栄したアロデスムスと呼ばれる種類があります。浦幌町から発見された全身骨格が博物館に収蔵され、2018年に新種として発表されました。今回、その全身骨格を3Dスキャン・プリントをしたものを、外田組の館さんに組み上げていただきました。監修はこの標本を研究した帯広畜産大学の主森(とのもり)さんです。

化石鰭脚類の骨格組み立ては、**道内では初めて!** 7月19日の鰭脚類コーナーの新展示開始に向けて、現在仮公開中です。



足寄動物化石博物館 フォストーリーあしよろ
指定管理者 NPO法人 あしよろの化石と自然

No. 167
2025年 4月23日発行

〒089-3727 北海道足寄町郊南1丁目 TEL 0156-25-9100 FAX 0156-25-9101

(年4回発行)

staff@museum.ashoro.hokkaido.jp

http://www.museum.ashoro.hokkaido.jp (博物館だよりpdf版あり)

あしよろ化石教室

地層や化石に触れ、北海道の大地の移り変わりを直に感じましょう。



① 阿寒町での発掘のようす

② 足寄町螺湾での化石採集の様子

③ 白糠町右股の地層の化石

第一回：釧路市阿寒町の地層で、500万年前の貝化石を探します。地層はかためですが、大きなタカハシホタテは迫力満点です。

第二回：足寄町モラワンでは博物館の化石が発見されている2500万年前の地層を観察し、螺湾らわんでは、古十勝湾の地層にある500万年前の貝化石を探します。

第三回：白糠町右股の地層で、3000万年前の貝化石を探します。石ころのようなノジュールに包まれている化石が多いですが、巻き貝や二枚貝の化石が見つかります。

第一回 釧路市阿寒町

日時：6月8日（日）12：30集合 15：00ごろまで

人数：30名程度

※年齢制限はありません。

第二回 足寄町螺湾・モラワン

日時：6月15日（日）12：30集合 15：00ごろまで

人数：20名程度

※年齢制限はありませんが、大人ひざ丈程度の川を渡ります。徒歩での移動が長めです。

第三回 白糠町右股

日時：6月22日（日）12：30集合 15：00ごろまで

人数：30名程度

※年齢制限はありませんが、大人ひざ丈程度の川を渡ります。

申込み：5月14日（水） 来館または電話での仮予約開始

※仮予約後に詳しい参加案内と申込用紙を渡します。また、各回とも天候や河川の増水状況、および社会状況によって中止とする場合があります。

アショロアはどこまでわかったか 50年をふりかえる①

足寄博物館展示室の入り口に、骨格が地層に埋もれた状態のパネルがあります。足寄第一標本の産状模型です。パネルを90度倒した状態で、モラワン川の河床で発見されました。1976年のことです。つまり「足寄の化石」は来年で50周年をむかえるのです。

発見 北海道大学大学院生の木村学さんは、北海道の成り立ちを研究テーマとし、道東地域の地質調査を進めていました。1976年7月31日、モラワン川沿いの調査中、川底に化石らしきものを発見しました。

木村さんは早速指導教員であった松井愈さんに連絡しました。8月15日、松井さんをリーダーとする調査グループはモラワンを訪れ、一頭分の骨があることを確認し、本発掘を実施することを決めました。このときは動物がなんであるかはまだわかりませんでした。（次号は、発掘と研究）



展示室入り口の産状模型

論文

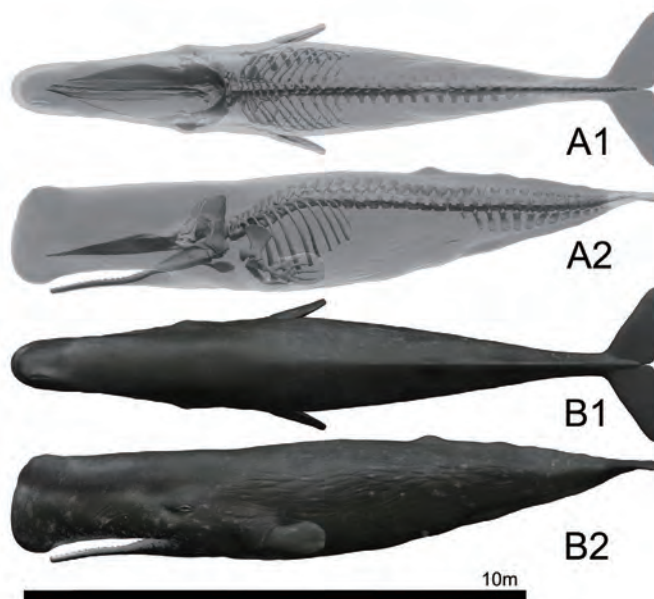
マッコウクジラの骨格に関する論文が、「日本セトロロジー研究」という雑誌に載りました！

皆さん驚くかもしれませんが、博物館に骨格標本が組み上げられて展示しているからと言って、それらが正しいとは限りません。

それは、①骨格を組み上げること自体がとても大変であること、②大型の動物の骨格の配置は正確に理解されていないこと、などが問題としてあります。

しかし、近年、マッコウクジラの全身を樹脂で固めたという論文が公開され、その画像を参考に足寄博のマッコウクジラの骨格をパソコン上で組み上げ直し、他の骨格標本と比較して、もっとも正確な骨格であると結論付けました。

今後は他のクジラでも正確な骨格を組み上げたいですね。



地質の日(5月10日)

今年もやります「石はみがくと玉になる 文鎮版」

足寄博物館の「地質の日」協賛事業は、毎年「石みがき」をおこなってきました。

今年も、日高山脈の石や大雪山系の石をみがいて、文鎮づくりを楽しみましょう。

大雪山系の石：十勝石（黒曜岩）

日高山脈の石：へび石（片麻岩・片岩＝変成岩） 勝黒石（泥岩）

世界各地の石：ラピスラズリ、ミャンマー「ヒスイ」、ルビー入りフクサイトを
をみがいて文鎮（ペーパーウェイト）をつくります

5月10日（土）・11日（日）

10時～12時

13時～15時（計4回）

実施場所：足寄動物化石博物館化石工房

参加条件：小学校高学年以上がおすすめ

「自分はおとなだ」と言える人＝途中でなげださない人 はOK

参加費用：1000円（「世界各地の石」は個数限定で追加料金が必要です）

募集人数：各回 6人（6席用意します）

参加申込：電話で；0156-25-9100

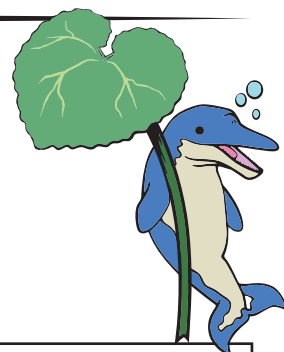


文鎮の材料
世界の石の例

ラピスラズリ 「ヒスイ」 ルビー入りフクサイト

足寄動物化石博物館の利用について

- 開館時間 午前9時30分～午後4時30分（入館締め切り時刻）
- 休館 毎週火曜日（祭日の場合は開館し、翌日またはその後の平日）
年末（12月28日から）・年始（1月4日まで）
※海の日から8月末までは、全日開館します。
- 料金 一般 400円、小中高・65歳以上 200円
幼児は無料。足寄町内の小中学生は無料。
※館の主催事業の際は、無料にすることがあり、その都度お知らせします。



展示室には、ひさしぶりの「あらたな動物」の復元骨格が登場します。ぜひご覧ください。
化石工房では、ミニ発掘の石をけずるお皿を新しくしました。なんと新潟県燕産のステンレス製です。